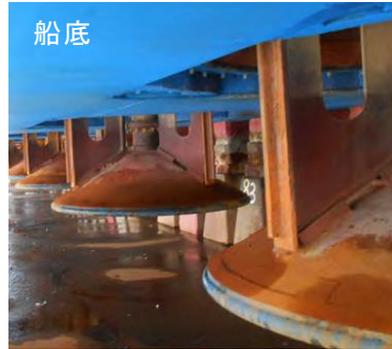


別紙 2：浚渫土砂を投入する船舶（ドラグサクシオン船）

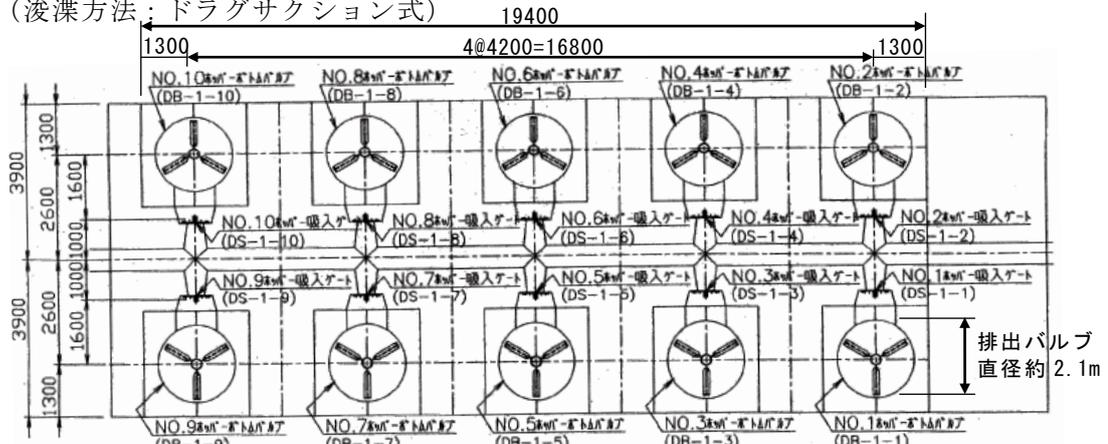
浚渫土砂の排出方法：浚渫した土砂を白山の船内に設置された浚渫土砂をためる場所である「泥艙」に入れたまま、排出海域（海洋投入海域）に運び、船底のバルブを開けて排出する。



大型浚渫兼油回収船「白山」
(浚渫方法：ドラグサクシオン式)



排出バルブ（マニホールドバルブ）



白山の船底（浚渫土砂排出口）の状況（排出バルブの寸法）

図-2 「白山」船底

<参考>

- GPS により位置を確認のうえ排出し、航行中は排出しない。また、排出海域において船艙の洗浄は行わない。
- 1日あたりの最大投入量は、9,210m³（平成27年度実績より）とする。
- 1回のサイクル（浚渫～運搬～排出）は、約1時間30分（船舶航行の安全上の観点から土運船との同時投入はない）とする。
- 排出海域（海洋投入海域）を4分割し、排出海域において排出した土砂が一定の高さで堆積するよう、排出位置を確認しながら排出する。
- 上記については、日々の最終投入時に「白山」に搭載されている音響測深機により測定し、最浅値を記録する。

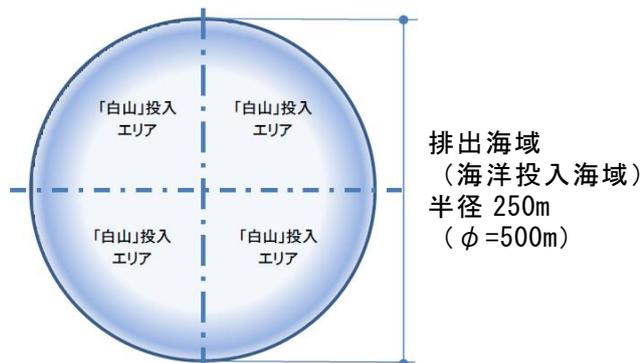


図-3 「白山」による投入箇所

浚渫土砂を投入する船舶（土運船）

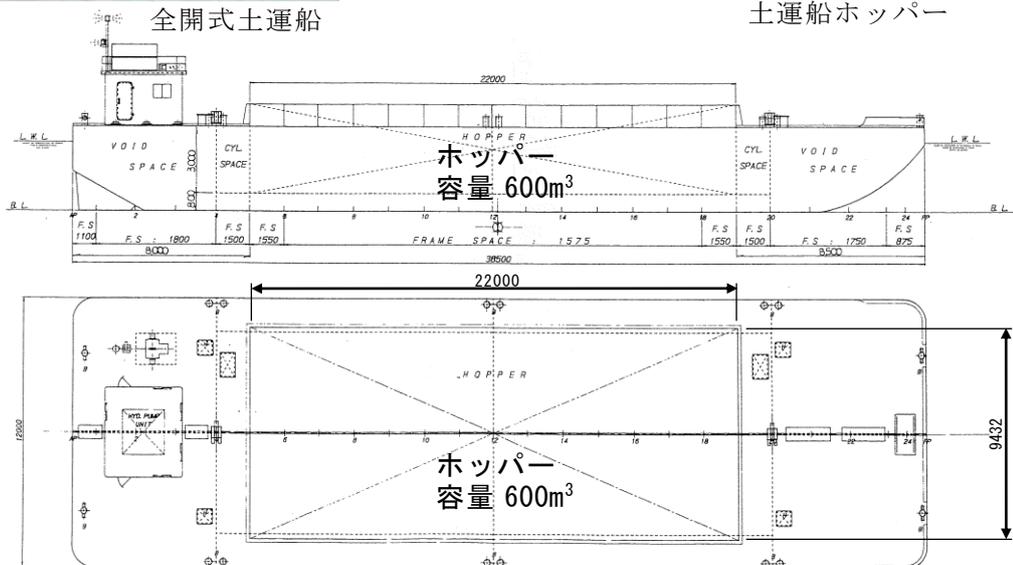
浚渫土砂の排出方法：グラブ浚渫船により浚渫した土砂を下図の全開式土運船に入れ、排出海域（海洋投入海域）に運び、船底を開けて排出する。



全開式土運船



土運船ホッパー



全開式土運船のホッパーの状況（ホッパーの寸法）

図-4 全開式土運船構造図（容量600m³）

<参考>

- ・引船の GPS により位置を確認のうえ排出し、航行中は排出しない。また、排出海域において船艙の洗浄は行わない。
- ・1日あたりの最大投入量は、4,586m³（平成27年度実績より）とする。
- ・1回のサイクル（浚渫～運搬～排出）は、約2時間（船舶航行の安全上の観点から白山との同時投入はない）とする。
- ・排出海域（海洋投入海域）を7つに分割し、排出海域において排出した土砂が一定の高さで堆積するよう、排出位置を確認しながら排出する。
- ・上記については、日々の最終投入時に引船に搭載されている音響測深機により測定し、最浅値を記録する。

注) 土運船による投入は本申請には含まれないが、参考として記載した。

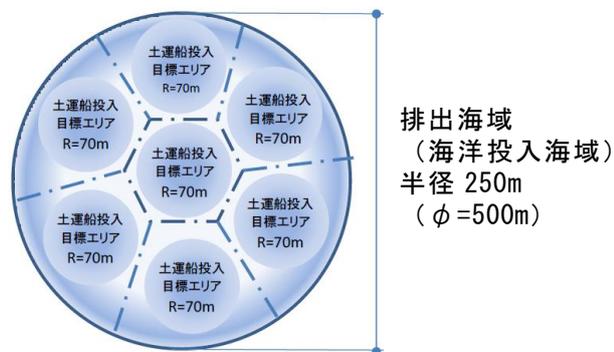


図-5 全開式土運船による投入箇所